

2019年1月15日号(平成31年)第3599号週刊

定期購読料（送料込み）  
6ヶ月 8,229円（本体7,619円+税）／1年 15,840円（本体14,667円+税）  
◎住宅新報 2019年 1948年6月18日第3種郵便物認可  
発行／毎週火曜日 1部 360円（本体333円+税）

株式会社 住宅新報 Webはこちらへ 住宅新報 検索  
本社/〒105-0001 東京都港区虎ノ門3-11-15 SVAX TTビル 電話 03-6403-7800 FAX 03-6403-7825  
支社/〒541-0046 大阪市中央区御堂筋1-8-13 御堂筋八千代ビル 電話 06-6909-8141 FAX 06-6909-8199



大谷巖一

# 住宅新報



創刊72年

日本の国債発行額は、高  
く1000兆円を  
超え、このまま推  
すれば株価暴落、「  
家財政破綻の危機」  
ら見えてきました。  
百年に一度、パラ  
イムシフトの到来  
す。将来の明暗をさ  
る重要な時期は、19年  
までの5年間です。

るの間に今全国で因襲生  
代の経済層（親）なり子供達  
くの元が織が期間であります  
共に、運動運転、モバイル  
の普及＆スマート（Mobile  
lity as a Service）も

「健全な危機感」を持ち、早期に経営を変革

その間にチャンスあり！⑩

よる車両の所有から利用へのシェアリングも進みます。それらの価値変化が定着するまでの5年間が「ピонチとチャンス」の分岐点になると見ておきます。

日本政府の英断も必要です。米国経済の景気失速が早まれば、日本経済も多大な影響を受けます。米国経済が順調に推移したとしても、日本が残された期間まで財政重建を実行しなければ、日本国債暴落（利回り上昇）による経済破綻が生じかねません。だからこそ政府による抜本的な制度改革が急務となるのですが、18年7月の参院定数6増法の成立を見ても、期待できないことは明らかです。人口減少の日本で国会議員を6人増員して、年間1億円ともいわれる経費を捻出する必要があるのでしょうか。

そこで私は、物流業の経営者の方々に対し、個々に「健全な危機感」を持つことを提言しています。危機感を持ち、早く行動を起こすことで生き残る策が見つかるからです。筆者が危惧するのは、迫り来る危機を前にして、手をこまねいて

よる車両の所有から利用へのシェアリングも進みます。それらの価値変化が定着するまでの5年間が、「ピンチとチャンス」の分岐点になると見ていてます。

危機感」に変化することが重要です。不動産業界は人口減少による国内不動産マーケットです。頭の中で思いを巡らしているうちに「切迫した規模開発、首都圏におけるオフィス・マンションの大量供給、増加する空き家問題、生産緑地の22年問題などから、中小不動産会社の経営悪化が懸念されています。そこで私が提案するのは不動産業をコアにした、他業種のビジネスである物流業を巻き込んだ「業態化」です。柔軟で即時性のある新たなビジネスモデル「物流不動産ビジネス」を取り組むことをお勧めしているのです。

新たなチャレンジにバイアスをかけることや、過去の繁栄を取り戻そうと「本業回帰」に走る会社が多いことです。本業で高い利益を出し、明るい将来展望が開けるなら、今すぐ分散化した力を本業へ集中すべきです。しかし、前提条件が崩れていると、紡績事業からの撤退が遅れ、破綻した力ネボウのようになってしまいます。

一方で、写真フィルムの最大手、富士フィルムはスマートフォンのカメラ機能向上やコンパクトデジタルカメラの普及により、需要が激減した本業に見切りをつけました。写真フィルムから派生した技術をスキンケア化粧品、液晶用フィルム、医薬品などに応用して事業化につなげ、事業構造転換に成功しました。

差し迫った必要性がない限り、変わるのは誰も同じです。逆に自らを変えなければ、必要性を創出すればいいのです。村上龍氏の「才能とは危機感に支えられた意思」という言葉に、本当に共感しています。